

都会の叫び (1948)

CRY OF THE CITY

メディア 映画

ジャンル 犯罪 サスペンス

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 95分

初公開日 1950/02/28

公開情報 セントラル

【解説】

多少お説教じみてはいるが、リアルな細部がちょっとスコセッシなどの作品を思わせる、イタリア系社会を背景にした犯罪もの。マーティン・ローム（コンテ）というヤクザが深夜、病院に収容される。彼は警官と撃ち合って相手を殺し、自分も重傷を負ったのだが、ロームに、ある顔役のしでかした強盗殺人を余罪として擦りつけようと弁護士ナイルズが現われ、また、彼の恋人ティナもこっそり見舞いにくる。ティナに危険が及ぶのを恐れたロームは、病院の看護婦に頼んで彼女を匿わせ、自らは拘置所に入れられた隙に逃げ出す。そして、弟トニーを囮にし警官をまいて、ナイルズの事務所を襲うが、揉み合った末に彼を殺し、流れ弾で女秘書も犠牲となった。逃げるロームは、もぐり医者元情婦ブレンダ（ちょっとした出番だが雰囲気を出すS・ウィンターズがいい）に呼ばせ、治りきらぬ傷の手当てを受け、真犯人の共犯者の女マッサージ師の居所を突きとめ、彼女を罠にはめ警察に捕らえさせる。だが、旧友である警部補ヴィットリオ（マチュア）の手も迫っていた……。映像的にかなり工夫があってシオドマクの演出は飽きさせないが、物語のひねりとなる点でことごとく矛盾が露呈し、テンポの乱れも目立つ。しかし、主役二人の、追う側と追われる側で敵対しながらも、同じ環境で育った精神的な絆の断ち切れなさがごく自然に描かれており、警部がロームの家族を訪ねる場面など、アットホームで実にイタリア的感じが出ている。コンテがまた、やさぐれギャングの哀感をさり気なく漂わせた好演をみせた。

【クレジット】

監督	ロバート・シオドマク	Robert Siodmak
製作	ソル・C・シーゲル	Sol C. Siegel
原作	ヘンリー・エドワード・ヘルセス	
脚本	リチャード・マーフィ	Richard Murphy
撮影	ロイド・エイハーン	Lloyd Ahern
音楽	アルフレッド・ニューマン	Alfred Newman
出演	リチャード・コンテ	Richard Conte
	ヴィクター・マチュア	Victor Mature
	シェリー・ウィンターズ	Shelley Winters
	フレッド・クラーク	Fred Clark
	ベティ・ガード	Betty Garde
	デブラ・パジェット	Debra Paget
	ホープ・エマーソン	Hope Emerson